

2010 年 8 月 31 日

【報道関係各位】

(株)ベネッセコーポレーション
広報部

当レターでは、株式会社ベネッセコーポレーション(以下、ベネッセ)より、最近の話題や情報を提供しています。今回は、進研ゼミ中学講座が行った「高校受験期における生活・学習習慣調査」の結果をご紹介します。

成績上位の子どもができている生活・学習習慣とは？ ～新学期からすぐ実践できる、高校受験生の「3つのルール」～

ベネッセの通信講座「進研ゼミ中学講座」では、2010 年 8 月、全国の高校 1 年生 412 名を対象に、高校受験期である中学 3 年生の時の生活・学習習慣に関するインターネット調査を実施しました。

本調査では、子どもの成績と生活・学習習慣との関連を把握するため、進研ゼミ中学講座内で実施する模擬試験の合格可能性判定において、合格判定ラインが偏差値 60 以上の高校に通う子ども(A 層:206 名)と、合格判定ラインが偏差値 50 以下の高校に通う子ども(B 層:206 名)を抽出し、両者の回答を比較しました。その結果、B 層と比較して A 層の子どもの高校受験期の行動には以下の特徴がありました。

1. 「考える」ことにこだわる

- ・ 「間違えた問題の理由を考える」は 27.2 ポイント多い(A 層:68%⇔B 層:40.8%)
- ・ 「分からない問題も納得いくまで考える」は 33.5 ポイント多い(A 層:44.7%⇔B 層:11.2%)
- ・ 「解答をそのまま暗記する」のは 20.8 ポイント少ない(A 層:8.3%⇔B 層:29.1%)

2. 早起き・3食だけでなく「勉強をする時間」も決めて、生活リズムがさらに安定

- ・ 早起き(朝 6 時 30 分より前に起きる)が 17.0 ポイント多い(A 層:40.3%⇔B 層:23.3%)
- ・ 1 日 3 食きちんと食べる(91.3%)
- ・ 「勉強する時間が決まっていた」は 17.4 ポイント多い(A 層:84.9%⇔B 層:67.5%)

3. 中 3 の段階で高校受験の「先」を意識

- ・ 志望大学を「意識していた」(いた+何となく)のは 28.7 ポイント多い(A 層:38.9%⇔B 層:10.2%)
- ・ 将来の職業を「意識していた」(いた+何となく)のは 7.3 ポイント多い(A 層:42.7%⇔B 層:35.4%)

4. 受験にあたって「自ら学ぶ習慣」「自分の学習スタイル」の確立を重視

- ・ 「自ら学ぶ習慣を身に付けておく」重視は 11.2 ポイント多い(A 層:60.2%⇔B 層:49.0%)
- ・ 「自分なりの学習スタイルを確立する」重視は 14.1 ポイント多い(A 層:48.1%⇔B 層:34.0%)

5. 自分で勉強の計画を立てた

- ・ A 層の 74.2%は勉強の計画を「自分で立てた」(ほとんど+ある程度)
- ・ B 層の 32.5%は「計画を立てなかった」

【本ニュースレターに関するお問い合わせ先】

■株式会社ベネッセコーポレーション
広報部 担当:濱野
電話:042-356-0657 FAX:042-356-0722

■株式会社プラップジャパン(広報代行)
CP1 部 担当:蛭川、小林
電話:03-3486-6868 FAX:03-3486-7502

■ 調査概要 ■

調 査 方 法	インターネット調査
調 査 地 域	全国
調 査 対 象	高校 1 年生(保護者を通じた共同回答方式)
有 効 回 答 数	412 サンプル
調 査 時 期	2010 年 8 月

■ 「進研ゼミ中学講座」からの総評 ■

進研ゼミ会員が進研ゼミ中学講座に期待することは、日常の授業の予習復習の支援や定期テスト対策から志望校に合格するために必要な教科力の育成、将来の進路に関する情報提供などさまざまです。将来へのさまざまな志向から、難関と言われる高校の入試にチャレンジする子どもたちもいます。進研ゼミ中学講座としては、中学生の多様なニーズの一つとして、こうした難関校受験を目指すニーズにも十分に答える商品・サービス作りや情報提供に取り組んでいます。

今回の調査は、その一環として、サンプルとした両層の間に生活・学習習慣や勉強に対する意識の面で差があるのかを探りました。結果として、学習姿勢に対する差は大きく、A層では、「考える力」や「自ら学ぶ力」を重視していることをはじめとして、基本的な知識、思考力・判断力・表現力、学習習慣の確立等に取り組んでいることがわかりました。

高校受験は子どもたちにとって大きなハードルです。しかし、受験勉強は思考力、読解力、判断力、表現力といった学力を身につける重要な機会であり、また高校進学はその後の人生で目指すべき目標へ向けた重要な第一歩となります。

「進研ゼミ中学講座」では、本調査によって浮き彫りとなった、子どもたちの生活・学習習慣や勉強に対する意識の違いなどを基に、講座内での受験指導での知見をふまえ、志望校合格へ向け身につけたい「3つのルール」を導き出しました。誰でも身につけられる「ルール」として提案することで、9月から始まる2学期より本格化する受験勉強に向けて、全国の受験生を応援します。

●「進研ゼミ中学講座」が提案する「3つのルール」

1. 3 回思考

難しい問題にも自分が納得いくまでしっかりと考え、間違えた場合は「なぜ間違えたのか」を考え、さらには、時間をおいて解き直す。一つの問題で「3 回思考」することで、思考力に差がつきます。

2. 3 点固定

起床時間・就寝時間に加えて、「勉強を始める時間」を固定する。勉強が習慣になり、リズムが生まれます。

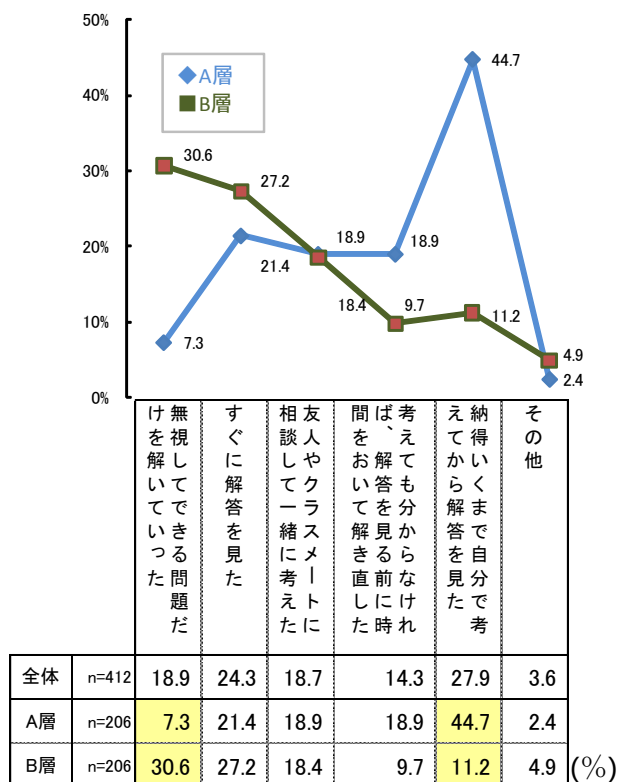
3. 3 手想像

目の前の高校受験だけではなく、2 手先の大学などの上級校、3 手先の就職・将来の仕事などになりたい自分をイメージします。目的意識を明確にすることで、モチベーションに差がつきます。

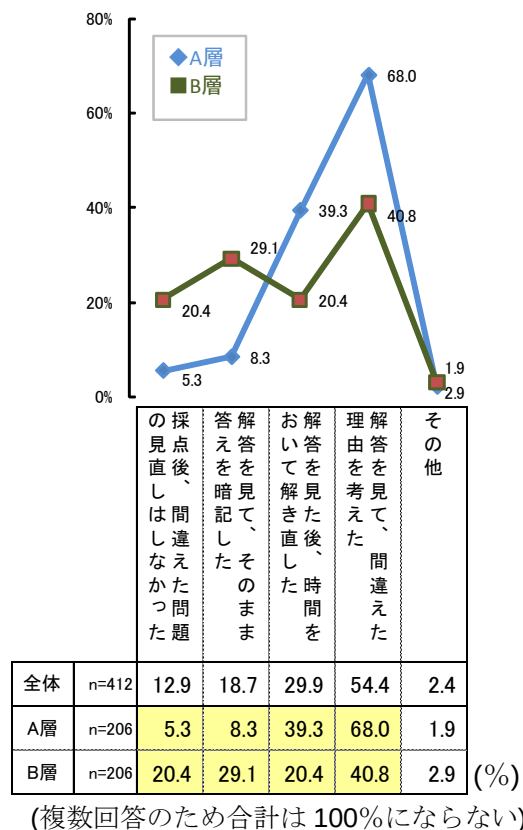
■ 調査結果詳細 ■

1. A層の子どもの方が「考える」ことにこだわる

■ グラフ 1 高校受験に向けて勉強している時、わからない問題があった場合どのように対処しましたか



■ グラフ 2 問題集や模試などで間違えた問題はどのように対処しましたか

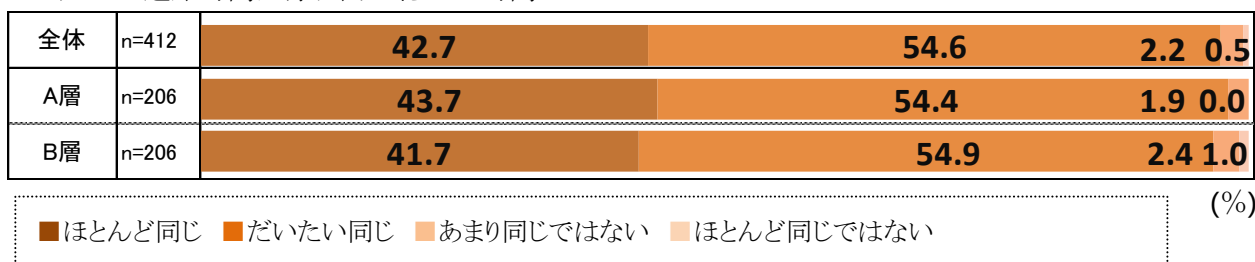


・「わからない問題への対処」をたずねたところ、A層は「納得いくまで自分で考えてから解答を見た」が44.7%に対し、B層では11.2%。一方、「無視してできる問題だけを解いていった」はA層が7.3%であるのに対し、B層は30.6%でした。

・「間違えた問題」への対処方法でも、A層は「間違えた理由を考えた」、「時間をおいて解き直した」がそれぞれ68.0%、39.3%とB層に比べて高くなっています。一方で、B層では「そのまま答えを暗記した」、「見直しはしなかった」がそれぞれ29.1%、20.4%とA層に比べて高くなっています。

2. A層の子どもは早起き・3食だけでなく「勉強をする時間」も決めて、生活リズムがさらに安定

■ グラフ 3 起床時間は毎日同じくらいの時間でしたか



■グラフ 4 就寝時間は毎日同じくらいの時間でしたか

全体	n=412	31.8	60.4	7.3	0.5
A層	n=206	33.0	61.7	5.3	0.0
B層	n=206	30.6	59.2	9.2	1.0

■ほとんど同じ ■だいたい同じ ■あまり同じではない ■ほとんど同じではない

(%)

・生活の基本サイクルである起床、就寝については、A層とB層での違いはあまりなく、ほとんどの子どもが毎日同じくらいの時間に寝起きをしています。

■グラフ 5 受験生(中学3年生)の時、何時ごろ起きていましたか

全体	n=412	31.8	32.5	28.2	5.8	1.7
A層	n=206	40.3	31.6	23.8	3.4	1.0
B層	n=206	23.3	33.5	32.5	8.3	2.4

■午前6時半以前 ■6時半～7時前 ■7時～7時半前 ■7時半～8時前 ■8時以降

(%)

・起床時間に目を向けると、A層の方が早起きの傾向にあります。6時半以前に起きる割合が、A層の40.3%に対し、B層は23.3%となっています。

■グラフ 6 受験中の食生活はどのようでしたか

全体	n=412	87.4	1.5	5.1	6.1
A層	n=206	91.3	1.0	5.8	1.9
B層	n=206	83.5	1.9	4.4	10.2

■3食きちんと食べていた ■毎日バラバラだった ■3食以上が多かった ■1食か2食が多かった

(%)

・食生活についても、ほぼ90%近くの子どもの「3食きちんと食べている」状況ですが、B層は「1食か2食が多かった」人が10.2%と1割以上になり、やや生活リズムが崩れる傾向が見られます。

■グラフ 7 勉強をする時間あるいはタイミングは決まっていたか

全体	n=412	13.8	62.4	19.4	4.4
A層	n=206	16.0	68.9	14.6	0.5
B層	n=206	11.7	55.8	24.3	8.3

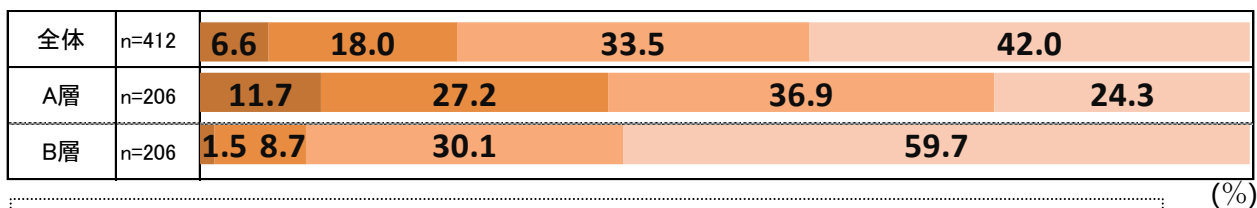
■決まっていた ■だいたい決まっていた ■あまり決まっていなかった ■決まっていなかった

(%)

・「勉強をする時間」については、生活習慣よりも大きな差が見られました。「決まっている」+「だいたい決まっている」の合計はA層が84.9%だったのに対し、B層では67.5%でした。

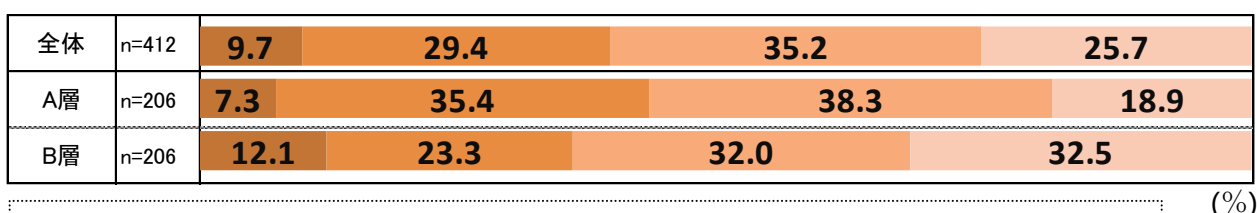
3. A層の子どもの方が、高校受験の「先」を意識

■グラフ 8 中学 3 年生の時に行ってみたいと思う大学はありましたか



■ 意識していた ■ なんとなく意識していた ■ あまり意識していなかった ■ 意識していなかった

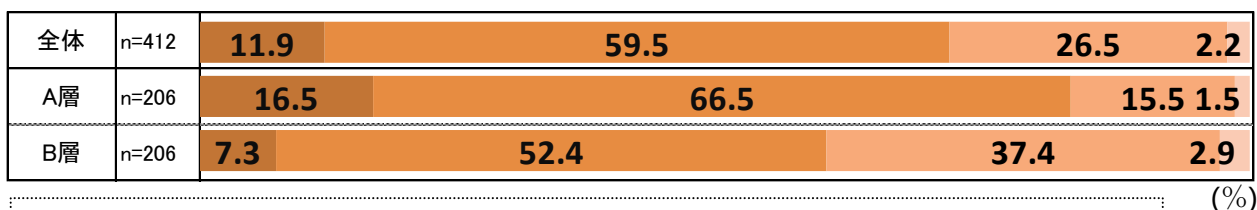
■グラフ 9 中学 3 年生の時に将来になりたい職業はありましたか



■ 意識していた ■ なんとなく意識していた ■ あまり意識していなかった ■ 意識していなかった

- ・中学 3 年生時点の将来イメージをたずねたところ、行ってみたいと思う大学を「意識していた」+「なんとなく意識していた」の合計は A 層では 38.9%だったのに対し、B 層では 10.2%でした。
- ・また、将来になりたい職業の項目においても、「意識していた」+「なんとなく意識していた」の合計が A 層で 42.7%、B 層で 35.4%と違いが出ています。中学生全体では、どちらも「あまり意識していなかった」+「意識していなかった」が半数を占めます。

■グラフ 10 高校受験勉強は、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか

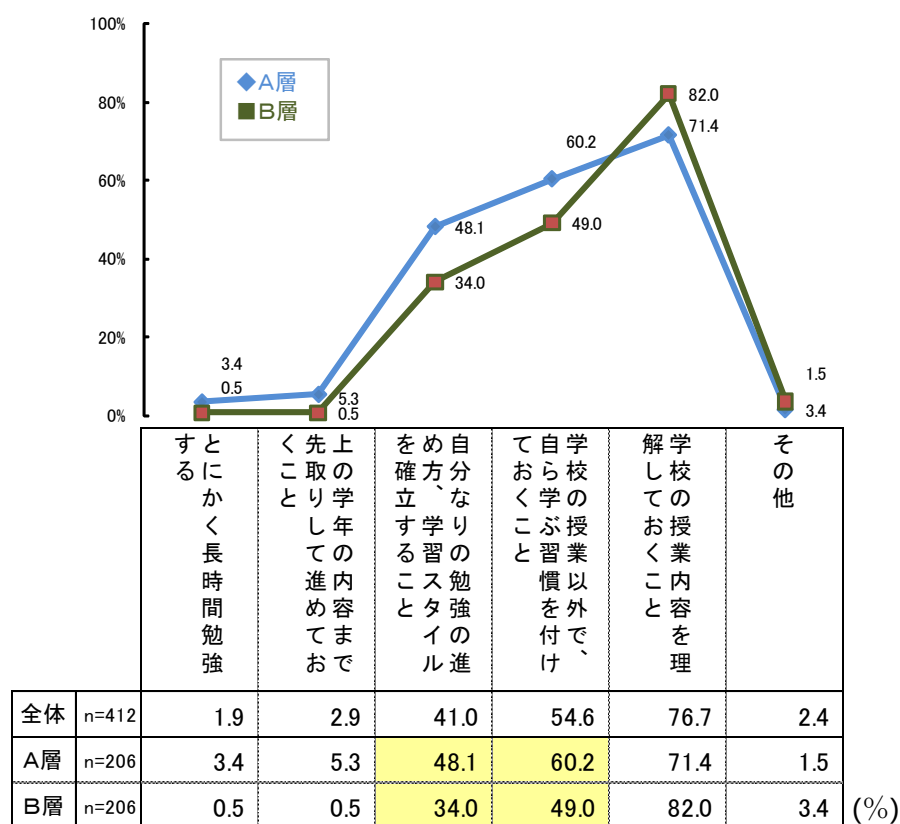


■ 役に立つと思う ■ それなりに役に立つと思う ■ あまり役に立たないと思う ■ 役に立たないと思う

- ・「受験勉強は将来役に立つと思いましたか」の設問では、A 層では「役に立つと思う」+「それなりに役に立つと思う」の合計が 83.0%だったのに対し、B 層では 59.7%でした。
- ・グラフ 8・9・10 を総合すると、A 層のほうが「高校受験の先」を想定して受験勉強に取り組んでいることが推測されます。

4. A層の子どもの方が「自ら学ぶ習慣」「自分の学習スタイル」の確立を重視

■グラフ 11 中学1年生・2年生の頃から特に行っておくべきだと思うことはなんですか

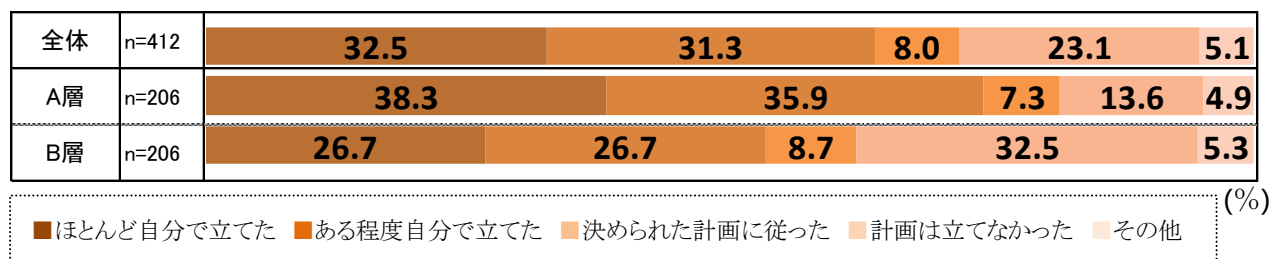


(複数回答のため合計は100%にならない)

・受験勉強を振り返り、中学1・2年生の早期段階から特に行うべきことをたずねたところ、A層は「自ら学ぶ習慣を付けておく」が60.2%に対してB層は49.0%でした。また、「自分なりの勉強を進め方、学習スタイルを確立すること」が48.1%に対してB層は34.0%でした。

5. A層の子どもの方が自分で勉強の計画を立てていた

■グラフ 12 高校受験勉強の計画はどのように立てましたか



・受験勉強の計画の立て方をたずねたところ、A層は「ほとんど自分で立てた」+「ある程度自分で立てた」の合計が74.2%であるのに対し、B層は53.4%でした。また、B層は「計画は立てなかった」割合も32.5%に及んでいます。A層の方が自分で計画を立てながら学習している傾向がわかります。